

特別対談

本音でトーク♪ 丹波市の魅力事情

「丹波市って帰りたい場所?」「暮らしやすい場所?」
若者のU・Iターン促進に向けて、「就職支援に関する連携協定」を結んだ武庫川女子大学・短期大学部に在籍する丹波市出身の学生のみなさんと市長が、若者の定着に向けて、「住みたいまち」「住み続けたいまち」へのまちづくりについて話すスペシャルトーク。



こはた まな愛菜さん
文学部3年生 (柏原地域)

大学で学んだ知識や経験を
地元に戻元できる
大人になりたい

ふるさととはホッとできる場所
丹波市で英語の教師になる
ため勉強に励んでいます

都合により削除しました

さん
文学部3年生 (地域)



ごとうありさ
後藤亜里沙さん
文学部2年生 (春日地域)

将来の夢は教師
丹波市で活躍できる
人になりたい



おしだ みずき
蘆田実瑞貴さん
健康・スポーツ科学部4年生 (青垣地域)

丹波市は人と人のつながりが
強く人々のあたたかさが
感じられるまち



うめつゆき
梅津由希さん
短大幼児教育学科2年生 (氷上地域)

資格をたくさん取って
教育関係の仕事につく
ことが私の目標です



やがけなつみ
矢掛菜摘さん
短大生活造形学科1年生 (市島地域)

私の夢は建築関係の仕事について
被災した丹波市に貢献すること

Chapter 1 今後の進路・就職

「丹波市で働き、丹波市で暮らす」

後藤 私は現在、幼稚園、小学校、特別支援学校教諭の資格取得に向けて学んでいます。そして、卒業後は丹波市に戻って働きたいと思っています。

私 も丹波市内の中学校で、英語の教師として働くことが目標です。市長は元中学校の教師と伺っていますが、教師に必要な資質について教えてください。

さい。

市長 教師の仕事は単に学業を教えるだけではなく、人を育てる仕事でもあります。ですから、まず子どもが好きだということが何よりも大切です。教師は、人を育てることで自分も成長できる素晴らしい職業ですよ。

矢掛 私の地元市島は、今回の豪雨災害で大きな被害を受け、

友だちの家も全壊しました。将来的には丹波市で建築関係の仕事に就いて、少しでも復興の役に立てればと考えています。

梅津 私の周りには、地元では働く先が少ない、職種が限られていると思う人がいて、そのような思いから、丹波市に戻ることを諦めている人が多いのではないかと感じています。実際、私の姉2人も女性の就職先が少ないという理由で、地元での就職を諦めています。そういう人たちにも就職先が見つかるような取り組みをしてほしいと思います。

小島 私はこの大学で多くのことを学び、経験したことを丹波市に戻元していきたいと思っています、その方法の一つ

に地元就職という選択肢があると思っています。今回の武庫川女子大学と丹波市との就職支援協定は、今後の丹波市出身学生のU・Iターンにもつながると思います。

市長 特に若い女性の都市部への流出を懸念しているなかで、丹波市での就職を考えてくれていることを大変うれしく思います。若者が定着し、活力あるまちにするためには、何よりも雇用の場の確保が不可欠です。新たな雇用の創出と定住促進を同時に進める取り組みを充実させ、「丹波市で働き、丹波市で暮らす」、そんな希望をもてる環境をつくらなければなりません。

キャンパスで学生たちを見守る「丹波石」



武庫川女子大学・短期大学部の創設者は青垣町出身の公江喜市郎氏。校内には氏のふるさとの石「丹波石」が置かれ、学生たちに親しまれています。



市は、11月19日、武庫川女子大学・短期大学部と就職支援に関する連携協定を締結しました。これにより学生のU・Iターン就職の促進、インターンシップ受入支援、企業情報や就職イベントの周知に取り組みます。



学生数は1万人を超え、女子大としては日本一の規模を誇る武庫川女子大学・短期大学部。丹波市出身の学生も数多く在籍しています。

Chapter 2 丹波市の課題と魅力 ～都会には住み心地で勝負～

市長 みなさんもご存じのとおり、人口減少・少子高齢化が全国的に大きな課題となっています。丹波市でも合併当時7万3千人だった人口が、10年を経て6万7千人に減少しました。次は、田舎と都会の両方の暮らしを経験されているみなさんと一緒に、丹波市の課題も含め、若者の視点からどうすれば若者が定着するまちになるのかを考えてみたいと思います。

小畠 事前に友だちにも丹波市について聞いてみたところ、みんな都市部への交通アクセスが便利になればと話していました。

私も同感です。西宮に住みはじめて感じたことは、都会は何かと便利ということ。電車やバスがたくさん走っていて、ストレスなく移動できます。

蘆田 近くにコンビニやス

ーパー、ショッピングモールなどがあって買い物に不自由しないのも都会の利点ですね。

梅津 私の実家はバスが通っていない地域なので、85歳を超える高齢の祖父母が病院まで家用車で通っていて心配です。安心して住み続けるためには、市内の公共交通の整備も大切なポイントだと思います。

市長 マイカーが主流の丹波市では、車を運転されない方、特に高齢者や学生のみなさんにとって交通手段の確保は切実な問題です。そのた



め、平成23年には「デマンド（予約）型乗合タクシー」の運行をスタートさせ、交通の不便な地域への対応に努めているところですよ。また、鉄道については、JR福知山線の利用増進を図りながら、複線化の実現に向けて関係機関へ積極的に働きかけています。

都会は便利だなと思う一方で、長期休暇などで丹波市に帰省すると、やっぱりほっとする場所だなんて感じます。

● 終わりに

市長 みなさんのようなふるさとを愛する若者たちに「丹波市に住みたい」「丹波市に住んでよかった」と思っていたらいいですね。働く場所の確保、安心して子どもを産み育てられる環境整備など、少子化対策にも力を入れるとともに、丹波市の魅力や良さをもっと若い世代のみなさんにも伝えていかなければならないと改めて考える機会となりました。

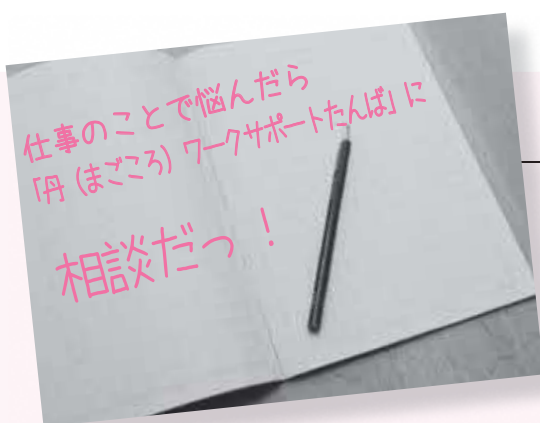
本日は貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。



蘆田 私はすでに丹波市内で就職することが決まっています。また、同級生のなかにも丹波市に戻って就職する子たちもいます。やはりふるさとに帰ると自然も豊かで空気もおいしい、そして何よりも人と人とのつながりが強く、人々にあたたかさを感じますね。

知らないとき々言われます。もっと若い人たちに興味をもってもらえる仕掛けづくりができればいいですね。

市長 丹波市にある四季折々の風景、田舎らしい心の豊かさや厚い人情などは、いずれも誇れるものです。都会にはまねできない丹波市ならではの住み心地、住みやすさがあると思うのでぜひその辺りを多くの方に感じていただけたらうれしいですね。また、丹波市には全国的なブランドとして知られる「丹波栗」や「丹波大納言小豆」、ヨーロッパではジビエ料理として人気の高い「鹿肉」など、魅力的な地域資源があります。そして、それらの資源をうまく活用して、地域を盛り上げようとする若者も増えつつあります。彼らと行政が一緒になってうまく情報発信することで、丹波市の魅力を感じ、好んで訪れてくれるファンが増えることを願っています。



● 仕事に関する相談を受け付けています

労働相談 - 電話による相談 ☎ 070 - 1239 - 8270

第2・4月曜日
労働条件、パワハラ・セクハラなどの悩み

キャリアコンサルティング

毎週火・水・木曜日
就職活動の進め方の相談、応募書類の添削、模擬面接の実施

心理相談

毎週金曜日
仕事の悩み、人間関係の悩みなどの相談

※要事前予約 予約受付時間：午前9時～午後5時（土・日・祝休み）

仕事に関する相談は…

「丹（まごころ）ワークサポートたんば」

丹（まごころ）ワークサポートたんば（春日庁舎内）☎ 74 - 3660



これまでの利用者は延べ7,300人！

平成25年4月に、市役所春日庁舎4階で開設した「丹（まごころ）ワークサポートたんば」の利用者が、11月末で延べ7,300人を突破しました。利用者のうち、380人の就職が決まっています。

若 者の就職支援はもちろん、生活保護を受給している方や障がいをもった方の就労支援にも力を入れています。

Q どんな相談ができるの？

A 求人の検索や申し込みができる！

ハローワークと同様に求人情報の検索や求職申込ができるほか、事前予約をすれば仕事に関するさまざまな相談を受けることができます。

A ワンストップサービスを実現！

生活保護を受給している方や障がいをもった方が同じ場所で職業相談やカウンセリングを受けることができます。